

十和田市現代美術館 2015 年度企画展のご案内 vol.2

アートにみる遊びの世界 ジャンプ

2015.4.18(土)-8.30(日)

[基本情報]

展覧会名＝	ジャンプ
展覧会英名＝	Jump
副題＝	アートにみる遊びの世界
会期＝	2015年4月18日（土）-2015年8月30日（日）
会場＝	十和田市現代美術館、中心商店街ほか
開館時間＝	9:00-17:00（入場は閉館の30分前まで）ただし、5月2日（土）-5月5日（火・祝）は18:00まで延長開館
閉館日＝	月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日）4月27日（月）、5月7日（木）、8月3日（月）、10（月）は開館
観覧料＝	企画展+常設展セット券1000円。企画展の個別料金は一般600円。常設展の個別料金は一般500円。団体（20名以上）100円引き。高校生以下無料。
主催＝	ジャンプ展実行委員会（十和田市、十和田市現代美術館、株式会社まちづくり十和田、十和田市商店街連合会）
後援＝	東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会
アートディレクション＝	Direction Q

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

展覧会概要

— アートにみる遊びの世界へジャンプ！ —

十和田市現代美術館は、2013年4月18日から、遊びの世界をテーマにした展覧会「ジャンプ」を開催します。

どうしてもぬぐい去れないものだけど、使いようによっては思いがけない力を発揮するもの、重力。

子どもたちを見ていると、そこにはまるで重力がないかのように飛び跳ねています。子どもには重力が効かないのか、あるいはオトナたちが飛べなくなっただけなのでしょう。いや、もしかしたら、柔らかい考えをもった飛べるオトナもいるかもしれません。そんな、飛ぶ力を捨てずにこの星と生き続けているオトナ＝芸術家たちによる展覧会です。

この星の力と対話をしながら、いたずらにも見えるような仕掛けを美術館に巡らせます。目の前の無限の創造性を信じて、みんなで心も体もまるごとジャンプ！

美しく咲き誇る官庁街通りの桜並木と共に、青森で展開するアートの世界をお楽しみください。



本展のみどころ

- 1、 体験型の作品が
- 2、 地域と連携し、さまざまなプロジェクトを会期中に実施します。
- 3、 現代アート界を代表するアーティストが参加します。



お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com


Arts Towada

出展アート作品およびアーティストのご案内

エルヴィン・ヴルム Erwin Wurm 『One Minute Sculpture』



One Minute Sculpture Organization of Love 2004/2015

1957 年オーストリア生まれ。ウィーンとリンベルグを拠点に活動。美術館外のアート広場に展示されている『ファット・ハウス』『ファット・カー』の作者です。

展示されている『One Minute Sculpture (1 分間の彫刻)』シリーズは、エルヴィン・ヴルムの代表的な作品です。1990 年代後半から開始された写真のシリーズは、一見ごく普通の人たちと日常にありふれたものが発する楽しみや愉快さが自然と写真の中にうつりこんでいますが、その奥には痛みや無視といった暴力的なものがひそんでいます。想像力に導かれた子どものような純真な活動が、不快な暗示と共存しながら、作品をより魅力的なものにしています。

展示室に日用品がのせられた台座が置かれています。これは、『One Minute Sculpture』のパフォーマンスシリーズです。展示されている絵画や彫刻をただ鑑賞するのではなく、アーティストの指示に従って、鑑賞者自身が文字通り「1 分間彫刻になる」ことで成立する作品であり、「1 分間だけ」作品が存在しています。「彫刻」や「美術作品」の概念をすっかり変えてしまうこの作品は、全く新しい方法で美術に向かいあう機会を提供します。

『One Minute Sculpture』のパフォーマンスシリーズは実際に体験いただくことができます。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

西京人 Xijing Men 『第 3 章：ようこそ西京／西京オリンピック・西京冬季オリンピック』



西京人はチェン・シャオション（中国）、ギムホンソック（韓国）、小沢剛（日本）の 3 名からなるアーティストグループです。3 人は個人として各地の国際展等で活躍する中で出会い、2007 年よりグループとしての活動を開始しました。東京でも北京でも南京でもない「西京国」という仮想国家を建国。その国の住人という設定のもと、国家や社会、経済といった枠組みに対する批評的な視線を、彼ら独自のユーモアや皮肉を織り交ぜながら、パフォーマティブに表現する作品を、映像やインスタレーションを用いてプロジェクトベースの物語として発表しています。『第 3 章：ようこそ西京／西京オリンピック・西京冬季オリンピック』では、国家の威信をかけて競いあうオリンピックとは異なり、西京国を舞台に、メダルの数や、記録更新とは異なる価値観でユーモラスなオリジナルスポーツが繰り広げられます。

チェン・シャオション（陳劭雄） 1962 年汕頭（中国）生まれ、北京（中国）在住。

ギムホンソック 1964 年ソウル（韓国）生まれ、在住。

小沢 剛 1965 年東京生まれ、埼玉在住。

スプツニ子！ Sputniko! 『カラスボット☆ジェニー』

1985 年東京生まれ、ボストン在住。テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像、音楽、写真、パフォーマンス作品を制作しているスプツニ子！。

『カラスボット☆ジェニー』では、人と交流するのが苦手な理系女子「ジェニー」にスプツニ子！が扮し、カラスと会話することができるロボット「カラスボット」を開発するという物語が展開しています。バイオロジー研究ラボの教授の論文を見ながら、半信半疑で開発を進める彼女は、果たして人間と人間以外の動物種の交流を実現できるのでしょうか。

本作の制作にあたり、スプツニ子！は、英国と日本の動物学者達と調査研究をし、展示している 2 台のカラスボットに、カラスの「挨拶」や「警戒」、「求愛」、「子カラスを探す母親」などのカラス語音声ファイルを搭載しています。時折聞こえるカラス語に耳をすませ、カラスとのコミュニケーションを想像してみましょう。



7 月 4 日 アーティスト・トーク開催決定！

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

ナンシー関 Nancy Seki

消しゴム版画家であり、史上最強のテレビウォッチャーにして、稀代のコラムニストであるナンシー関は、1962 年青森市堤町にある関ガラス店の長女として生まれました。法政大学在学中に消しゴムでハンコを彫りはじめ、「丁稚シリーズ十連作」がコラムニストえのきどりちろう氏の目にとまり、1984 年に消しゴム版画家としてデビューしました。

当時「ホットドッグ・プレス」編集者だったいとうせいこう氏に「ナンシー関」と名付けられ、読者投稿ページで連載開始。

消しゴム版画とコラムを組み合わせたスタイルはこの時に始まりました。鋭い観察に明解な形をあたえて文章と消しゴムに彫

りこみ、週刊誌のテレビコラムを中心に多くの連載で活躍。彼女の複眼的で客観的な視点は、ものごとの多様性や多面性を浮かび上がらせます。

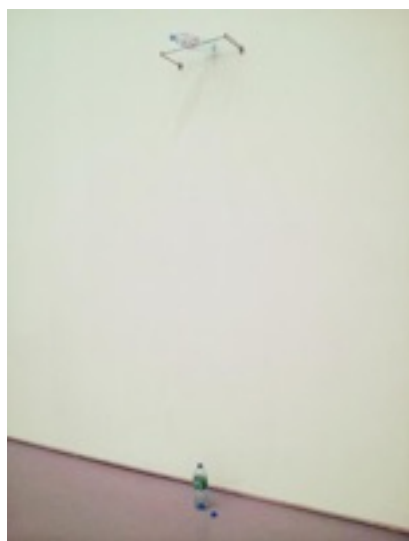
2002 年逝去。享年 39 歳。彫った消しゴム版画の数は 5,000 点強にのぼります。著書、作品集の出版数は 80 冊を数え、単行本未収録原稿の採録や再編集などによる没後の刊行は 15 冊を超え、今なお多くの人々に影響を与えています。

本展ではおよそ 100 点あまりの貴重な「生ハンコ」、そして高校時代から読者投稿していた雑誌『ビックリハウス』（PARCO 出版）に 4 回にわたって掲載された、丁稚が主人公の浪速ド根性物語をアニメ化した『消しゴムアニメ 通天閣はもう唄わない』を特別上映。朗読はピエール瀧さんです。



会期中、一部作品に入れ替えがございます。

森田 浩彰 Morita Hiroaki



私たちがよく知っているモノから意味や機能を抜き取り、ずらしながら、私たちが住んでいる世界がどうなっているのかをそっと知らせる森田浩彰。本展では 3 つの作品を展開しています。

『From World to Towada』では、世界各地で湧き出た水が、「奥入瀬源流水」のペットボトルにしたり落ちます。これは、アートが世界の各地から十和田にやってくるというこの美術館とも重ねられるでしょう。一滴一滴、水がしたり落ちるごとに、1990 年代以降、ますます加速しているグローバル化の輪郭が浮かび上がってくるようです。

『Spotlight Circulation』では、美術館のスポットライトによる閉じた世界が出来上がっています。本来、作品を照らすものが作品その

お問い合わせ

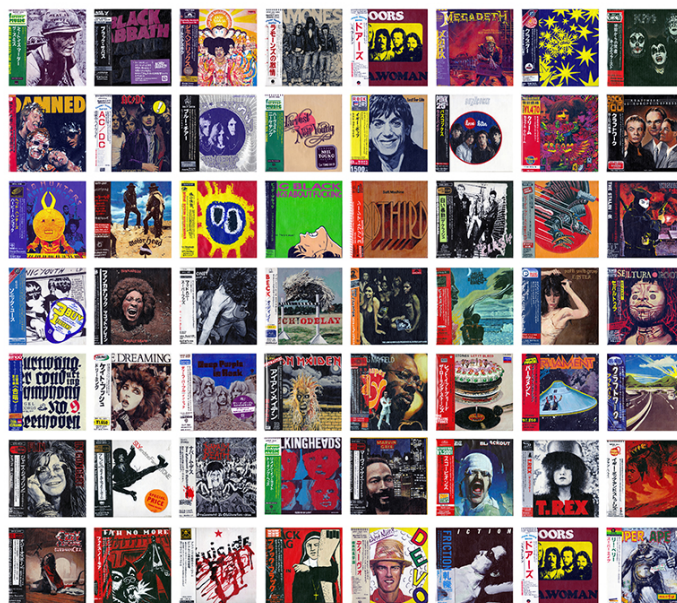
十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

ものになっていますが、スポットライトの用途をずらしながら生み出された世界は、大都市をリレーするグローバルな経済活動をも連想させることでしょう。スポットライトからスポットライトへと光が続いてゆくさまは、市場から市場へと終わりなく続いてゆく人間の世界のようにも見えます。

そして、『Trash Box (from MOT)』を見落とさないようにしてください。本作は、森田が2012年に参加した東京都現代美術館での展覧会で初めて展示されたものです。森田は、来場者や美術館の関係者に、その箱にゴミを捨てるように指示を出し、それは展示室の目立たないところに設置されました。本展では、それが東京から十和田に移され、展示されています。美術館の白い空間の性質を逆手にとり、廃棄から逃がれて溜まってゆくゴミを抱えたまま、美術制度に寄生して生き延びてゆく作品です。そして『From Evian to Volvic』では、高いところに設置されたエビアンペットボトルから、床に置かれているボルビックのペットボトルに向かって水滴がしたり落ちています。その時、エビアンは、ボルビックになったと言えるのでしょうか、それとも……。私たちは、中身ではなく商品ラベルを信用して買い物をしますが、本作は、そうした現代人の意識を攪乱しているようにも見えます。

相川 勝 Aikawa Masaru



展示室の棚に並べられた見覚えのあるメタルやロックのCD。相川勝による『CDs』は、1960年代から1990年代のCDのジャケット、ライナーノーツ、盤面、帯、音楽にいたるまでを、手描きの絵と声で完全に再現した作品です。すでに『CDs』の制作は100作品を超えていますが、選ばれたCDはすべて相川が愛してやまない作品であること以外に意味はなく、その精緻な筆致に個人の強い思い入れを感じるでしょう。試聴機から聞こえてくる奇妙な音は、CDの収録曲を相川本人がアカペラで再現したものです。大量生産されたCDが、相川の身体を通して唯一のものになるのです。

1978年ペルー共和国で生まれた相川は、大学在学中より「複製」や「身体」をテーマにした作品を発表してきました。近年は、「複製芸術」、「著作権／違法コピー」等に注目し、本作品をはじめ、ビデオやDVD作品、インターネット回線による電話サービス Skype（スカイプ）を題材にした写真作

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

品を展開しています。

作品は実際にお手にとってお楽しみいただくことができます。

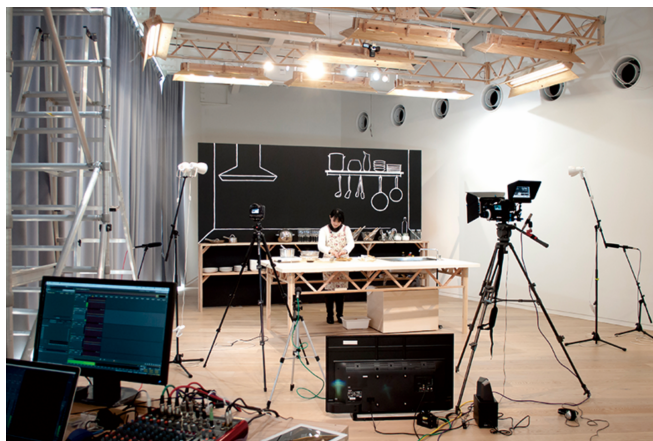
増田 拓史 Masuda Hirofumi

1982 年生まれ。横浜を拠点に活動した後、現在は宮城県石巻市に拠点を置き活動しています。近年では、日常の家庭料理にフォーカスをあて、個々人の出自や地域性を再発見し伝えていく「食堂プロジェクト」を、地域住民と協働しながら行い、映像や書籍型の作品を発表しています。

『Towada Kitchen Channel』は、増田が数ヶ月十和田に滞在し、リサーチや住民の方々との交流を通して、「食堂プロジェクト」を新しい形で

展開した作品です。地域の交流スペースにキッチンスタジオをしつらえ、料理番組風に 6 人の地域の方が《こあえ》や《茄子かやき》《馬肉味噌》といった思い出の家庭料理を公開実演した様子を映像化しました。

本展ではキッチンスタジオを展示室に再現。家庭料理を通して、個人の記憶や日常の光景という形のないものを掘り起こし、作品化することは、地域の生活に溶け込み、生活者として人々やその地域を見つめ続けている増田の作品における一貫した姿勢といえるでしょう。



ポリプラネットカンパニー polyplanet company

ポリプラネットカンパニーは、架空の人物 橘香里を代表としたアーティストグループです。廃棄物を利用して生活空間や公共空間を演出する作品を制作し、新しい地域での活動の創生を試みます。会期中、美術館内にポリプラネットカンパニーのスタジオをオープン。みなさんと共にスタジオで生み出される作品が街中をジャックします。ぜひご参加ください。

橘香里は大分県生まれ。大手商業施設の企画・広報の業務を経てビニールプラスチックコネクションの活動に出会い、ポリ素材を利用した手芸をはじめ。紆余曲折を経て大分県立美術館の横に 2014 年開館した USED TOYS TOILET MUSEUM の初代館長に就任。2015 年ポリプラネットカンパニー設立。趣味は自然鑑賞と登山と手芸。柑橘系の飲料物をこよなく愛する。

展示会場：中庭・市民活動スペース（美術館内）、市民交流プラザ、松本茶舗ほか

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

関連イベント・プロジェクト（7 月～8 月 30 日）

スプツニ子！さんによるアーティスト・トーク

7月4日（土）15:30-17:00

ゲスト：スプツニ子！

定員：50名（事前予約優先）、料金：無料（要観覧券チケット）



パフォーマンスイベント んまつーポス 《レッツ！スポーツBOYS & GIRLS》



アートの空間に“体育”を展示・上演する〈現代芸術的体育〉を实践し、国内外で活躍するダンスユニット「んまつーポス」が、日本列島南端の宮崎から北端の青森にやってくる！！

夏の美術館をプレイグラウンドに、なわとびやボクシング、おもちゃを使って、パフォーマンス&ワークショップを繰り広げます。

からだを空間に投げだしたり、アイデアを飛ばして遊んでみれば、子どもも大人も気がつきや、ほら！ダンス！ダンス！？ダンスッ！！！！

7 月 18 日（土） 午後 公開リハーサル

7 月 19 日（日） 11:00 んまつーポス パフォーマンス（約 30 分）

13:00 ワークショップ（約 45 分）

15:00 ワークショップ参加者&んまつーポス パフォーマンス（約 30 分）

会場：休憩スペース（お天気がよければ前庭でも行います）

ワークショップご予約：定員 20 名。おとなも子どももご参加いただけます。美術館までご予約ください。

んまつーポス（namstrops）

スポーツと芸術の境界域をそれぞれの先端と捉え、宮崎大学を拠点に“大学の知”とコラボレーションしている。海外では、エストニア、韓国、中国、イギリス、ルーマニア（シビウ国際演劇祭）で招

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

聘、作品を発表。国内（2015 年度）は、六本木アートナイト、第 25 回こうさくてん（金沢 21 世紀美術館）、いわき芸術文化交流館アリオス・アウトリーチなど、多彩に活動中。

酒プロジェクト

2011年アーティスト 山本修路と鳩正宗の杜氏・佐藤企（たくみ）氏が中心となり、地域の風土を生かしながら、十和田の日本酒《天祈り（てのり）》をつくる「酒プロジェクト」を推進しています。

一貫して「森をつくる」をテーマに制作に取り組んできた山本が、その土地その土地の森や植物を観察し、森林の成り立ちや森で起きていることなど、森の生物に関するさまざまな事象から物語を見出し、わたしたちが生きて行くために不可欠な森をより深く感じるための作品を制作しています。佐藤企氏も「自家栽培米特別純米酒 佐藤企」をはじめとし、十和田にゆかりのある酒造りを長年にわたって行っています。

このプロジェクトは、米作りから日本酒を造るまでの過程を地域の方と協働で行うことで、地域の自然に触れ、風土を知り、森を守り育てることを目的に企画されました。年月をかけたプロジェクトを街中で紹介します。



展示会場：たかむら食料品店

まわしよみ新聞@十和田市現代美術館

新聞をみんなで回し読みをし、気になった記事を切り取ってプレゼンし、さらに再編集して「みんなの壁新聞」として発行するメディア遊びです。

8月2日（日）13:00-17:00（予定）

講師：陸奥賢

夏の手づくりワークショップ

子どもから大人まで気軽に楽しめるものづくり体験メニューがいっぱい。ジャンプ展にちなんだプログラムも開催します。

8月10日（月）-20日（木）（17日休館日をのぞく）10:00-15:00（予定）

申し込み不要／材料費500円～

講師：ヒトとテシゴト会 ほか

* その他にも、会期中にさまざまな関連プロジェクト、イベントを予定しています。

* プレス用画像は下記よりダウンロードください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com